



朝日新聞環境教育プロジェクト



未来につながる環境教育を

出張授業や体験型イベントなどを通して、国内外の環境問題を身近に捉えてほしい、持続可能な未来のために、行動する人に育ててほしい――。

朝日新聞の環境教育プロジェクト「地球教室®」は、10年の節目を迎えました。学校・行政・企業が一体となり、子どもたちと様々な視点から地球環境について考えています。

2017年度の活動

2018年2月 参加賞① 参加賞②

10月～12月 「かんきょう新聞」の優秀作品を発表

10月21・22日 地球教室出張授業

9月24日 集まれ! 未来の森のプロテューサー!

9月 環境教育イベントの開催

6月 「かんきょう新聞」の募集

4月 オリジナル環境教材の製作・配布

2017年度の活動

参加賞① 参加賞②

各協賛企業のテーマに沿った「かんきょう新聞」は夏休み・冬休みの宿題などに利用され、1万1416作品の応募がありました。応募してくれた子どもたち全員に、参加賞をプレゼント。

▲参加賞は①苗木②ペットボトルでつくる野菜栽培キット③サラシックスまたはマルチネットセット④おまかせ⑤⑥⑦のいずれかをお選びください。⑧のどちらかが届くかはお楽しみに。マルチネットの柄は一例です。

応募総数 1万1416作品 本日も発表します。▼

子どもたちの優秀作品を

環境活動に注力する企業と朝日新聞社の記者たちが全国の小学校6校で合同出張授業を開催。国内外の環境問題を伝えました。

▲出張授業の様子(左の面(広告紙面)から)

独自の環境活動を展開する企業や環境問題の専門家、講師に招き、全国各地で様々なイベントを開催しました。

東京・有楽町に全国の小学4～6年生、約100人が集まりました。記者のレクチャーを受けた子どもたちは企業の環境活動を学び、「かんきょう新聞」作りのための取材にも挑戦しました。

三井物産(サス)とのコラボイベントに、小学4～6年生の27人が参加。森林散策や間伐見学などの体験を生かし、豊かな森づくりを考え、グループワークに取り組みました。

朝日新聞社が製作した教材を、全国の小学校や団体に無料配布。計24万5000人の子どもたちの手にわたりました。

テキスト「地球教室2017」環境問題を総合的に学べる「基礎編」「応用・研究編」の2冊がセットになっています。

環境について学ぶなかで興味を持ったこと、考えたことを伝える「かんきょう新聞」の募集を開始しました。

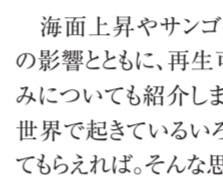
取材をもとに “地球の現状”を伝える 朝日新聞記者の授業

エコ活動に取り組む企業とともに、記者5人が国内外の環境問題を解説しました。



地球温暖化とその影響を食いつめるために
朝日新聞東京本社 科学医療部記者 神田明美

山火事がたくさん発生したり海水がとけたり、世界で地球温暖化の影響が現れています。排出される二酸化炭素などを減らさないと、さらに進んでしまいます。一人ひとりが何ができるかを、考えてほしいと思います。



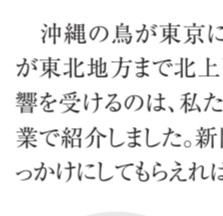
世界で起きていることに目を向けてみよう
朝日新聞東京本社 科学医療部記者 戸田政考

海面上昇やサンゴの白化など地球温暖化の影響とともに、再生可能エネルギーの取り組みについても紹介しました。環境問題を含め、世界で起きているいろいろなことに興味をもってもらえれば。そんな思いでお話しました。



世界各地で異変が発生 変化に強くなるには?
朝日新聞東京本社 科学医療部記者 佐々木英輔

海面上昇におびえる南太平洋の島々の姿を紹介しました。低い土地に多く人が住んでいるのは日本も同じです。今後は大雨が増え、台風も強まると心配されています。どうすれば変化に強くなるか、考えていきましょう。



生態系への影響も含め 広い視野で捉えてほしい
朝日新聞東京本社 科学医療部記者 小堀龍之

沖縄の島が東京に現れたり、南国のチョウが東北地方まで北上したり――。温暖化の影響を受けるのは、私たちだけではないことを授業で紹介しました。新聞を環境問題を考えるきっかけにしてもらえれば幸いです。



個人から社会レベルまで「環境活動」は幅広い
朝日新聞東京本社 科学医療部記者 小坪遊

米アラスカ州の現場や、世界に広がる再生可能エネルギーを題材に、地球温暖化の影響と対策を紹介しました。地球を守っていくため、個人、地域、社会といったレベルで、何ができるのか一緒に考えていきましょう。

かんきょう新聞優秀作品

かんきょう新聞の優秀作品は、地球教室®ウェブサイトでも公開中

旭化成賞

「自分たちができる町づくり新聞」
富田林市立富田小学校 (大阪府)
6年 和田恵里奈さん

再生可能エネルギーや研究が進められている輸送手段の有効活用など様々な角度から町づくりを考察。暮らしの工夫も紹介した。



●旭化成からのメッセージ
「家でできるエコ活動」から「自分たちができるエコな町づくり」にまで視野を広げて、何が必要かをていねいに調べているところがすばらしいです。きれいなイラストを入れて読みやすい紙面に仕上がっています。

ロッテ賞

「お口の恋人は地球の恋人 ロッテ新聞」
私立京都女子大学附属小学校 (京都府)
4年 柴田聖麗さん

企業理念、環境対策など幅広いトピックに触れた充実の内容。実際の製品フィルムやパッケージを使用し、読み手に伝わりやすい紙面に。



●ロッテからのメッセージ
企業の環境活動を調べるだけでなく、それに対する考察や「私のエココンセプト」という決意までしっかりとまとめられていて、すばらしいです。実際のパッケージなども使い、目を引くようにつくりかけていました。

三井物産賞

「木づかい新聞」
八王子市立柳田小学校 (東京都)
4年 木下遥風さん

オリジナルキャラクターの「はてなくん」が、木づかいや林業のサイクルなどを紹介。クイズを交えて、読み応えもたっぷり。



●三井物産からのメッセージ
学んだことを上手にまとめ、森の適切な管理や木づかいの大切さについて、気持ちを込めて分かりやすく伝えてくれました。また、国産材を使った棚を作り、周囲を巻き込んだ「木づかい」を実践してくれました。

ナブテスコ賞

「ナブテスコ新聞」
札幌市立共栄小学校 (北海道)
5年 浦嶋琴美さん

省エネにつながるナブテスコの製品と技術を紹介。イラストを取り入れ、製品の使用シーンとそのメリットを詳細に伝えた。



●ナブテスコからのメッセージ
精密減速機のみを自転車の変速ギアに置き換え、写真とイラストでとてもわかりやすく説明してくれましたね。近所の自動ドアを取材し、北国の省エネに役立つ自動ドアのしくみについても考察してくれました。

ESD活動支援センター賞

「地球かんきょう新聞」
つくば市立沼崎小学校 (茨城県)
4年 高桑志航さん

地球温暖化のメカニズムや居住地の平均気温の変化などを紹介。「このまま進むとどうなる?」と読み手の注意を喚起しながらまとめた。



●ESD活動支援センターからのメッセージ
地球規模の環境問題を自分たちの生活にひもづけ、グラフやイラストで図解する構成が見事です。学んだことをもとに自分でグリーンカーテンを作り、得られた効果を挙げてお友達に勧めているのがとてもすてきです。

